



蛇行する大樹海の大河・黄に濁り

〔タラカン スカラン〕

敗戦から四十一年、苦難のボルネオ縦走記を出版しようということになって、いまタラカンはどうなっているかを皆様にお伝えしようと、サマリンドン、ブラウ、ブロンガン、タラカンへ飛んだ。

●明日立つという日に友のつどい来て、

(大室、村本、秦泉寺、東京京王プラザ

ホテルで出版会議)

●雨あがり積乱雲の白まぶし。(バリ島)

●すき透るエメラルドの海、サンゴ礁。

●サマリンドンなつかしき顔、右、左。

(教え子たちの出迎え)

●落陽に涙してみたマハカムの流れ。

(サマリンドン収容所のとをたずねて)

●草茫々クアラカマン墓標もなし。

(スピードボートで溯江二日小学校あり)

●あれがブラウ白雲の切れ目山越えて、

(小型機メルパチ航空超低空ブラウがみえる。)

◎ (タラカン島着陸!!)

●銃撃に逃げまどった滑走路いまもおなじ。

●あの人は、この人はと、たずねし人は今はなく。

(ルモコイ、ウラン不明。パンゲラパン七十五才くらい、ジャカルタにいと。

「あれから四十五年恐らく生きていまい。」と老メナド人はつぶやいた。)

◎ (ジープでタラカン島一周。州知事庁発見)

●白い壁、二つの人口分室。

(燃料廠入口付近三叉路にあり。)

●ここが国旗掲揚台跡、パイプの根残る。

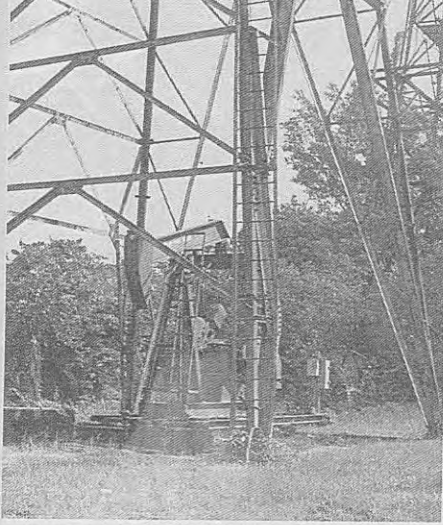
●リンカスの海軍倉庫弾丸のあと。

●タラカンの丘、大タンク群いま銀に映え。

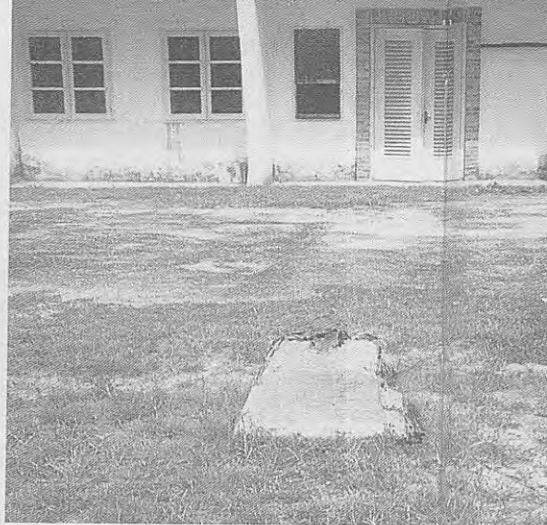
●崩れ落つ、木の栈橋の横、コンクリートの橋。

●長いジエンバタンいま日本向けベニヤ積む。

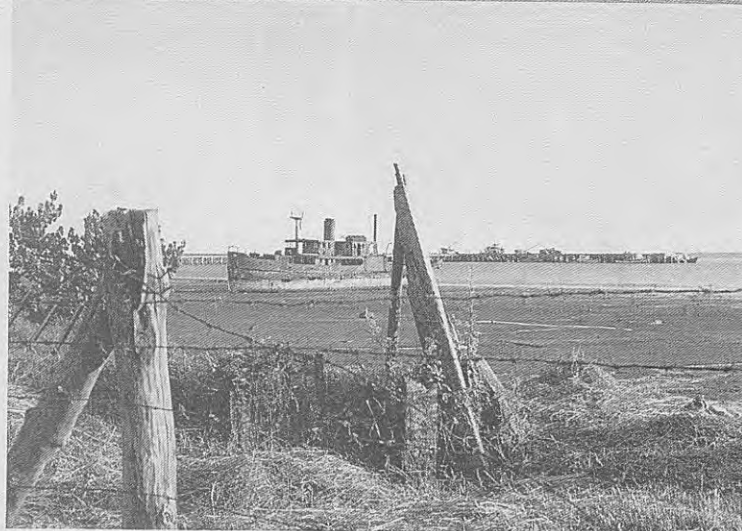
●向う岸タンジョンセロール、ソルタンは居ず。(テンベルで往復九時間)



シワタの井油機、数十年来休なくポンプは働いている。



朝夕の国旗掲揚に整列した前庭に、旗竿のパイプの根、今に残れり。



リンカス沖、焼残った鉄船赤錆びて。

武器持たぬわれら民政部職員は、オ一線で、原住民の民心の安定と生産指導、アジア民族の自立のため努力していた。武装して、戦線拡大をはかっていった戦闘員。アジア解放を叫んだ聖戦であった。

当時の南アジアはイギリス、フランス、アメリカ、ポルトガルに占領され、インドネシアは三百年間オランダの統治下にあった。

日本はABCドラインの締めつけで石油の入手も困難となり、先づ石油を求めて、マレーシア、インドネシアへ急進した。

戦線はアメリカ、イギリス追い出しのためフィリピン、仏印、タイ、マレーシア、インドネシアと進攻、西はビルマ、インド解放をねらい、南はニューギニアからニュージランド、濠州に迄、王道楽土、八紘一宇、大東亜共栄圏構想を持っていた。

正にジンギスカン以来の大壮舉で、戦線は延びきって、補給も不十分だった。武器もない戦闘員はオ一線に送りつけら

れ、そこに貼りつけられていたというのが当時の戦局であった。

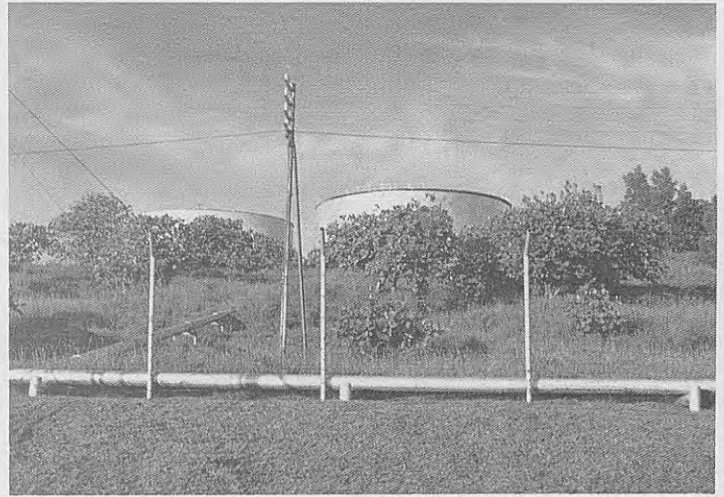
われらのタラカン島も石油をまもるための警備隊とオ一燃料廠、民政部職員、それに陸軍転進部隊を加えて日本人は二千名はいたであろう。

「敵連合艦隊ニューギニア、ホーランジャ沖に結集せり」のオ一報をマカッサル電で日本に報じて、すぐタラカン民政部へ飛んだ。攻撃の鋒先は日本本土とボルネオの石油基地に向かってくるのは必定であった。

小松知事のいるタラカン危し。最後の海軍四発飛行艇で赴任、数日後タラカン空襲がはじまる。レイテ沖海戦の大敗退を戦果を逆にしてタラカン新聞（現地語版）を発刊してすぐ、反乱ブト族の調査にダイヤック地区へ潜入、その調査報告のためタラカンヘスンパコン河を下ってゆく途中、タラカン島総攻撃の大砲の音を聞き、民政部ブロンガン移動を聞いた。武器持たぬ民政部はそれから北へ、南へとボルネオ縦走、ジャンゲルの苦闘がはじまった。



崩れ落ちし木の栈橋はそのままに。



一万トンタンクいまま青空に銀に輝く。

〔回想〕 (一) タラカン島に立ちて、

- 戦跡の椰子の葉ずれに思い出す。
- 油噴く一万トンタンク火ぶすまの中。
- リンカスの岸はみな油、船次々に燃ゆ。
- (橋のむこうの高オクタン缶のドラム缶集積所危なし。橋の下から吹き上げる重油の炎をくぐって、ドラム缶をころがす危険極まりなし。半数をころがし終えたが残り火に包まれて如何ともなし難し。突然大爆発!! ドラム缶宙に舞う。若かりし頃のタラカン空襲の一コマ。)
- 黒煙は天を蓋いて一週間。
- (タラカン島燃ゆ)
- 船体は赤錆びたまま四十年。
- (戦争の歴史、今に留む)

〔回想〕 (二) タラカン島玉碎

- 戦いとは、何のために。その霊と語る。
- 見渡す限り連合艦隊の包囲して。
- 韻々と集中砲火、身じろぎもせず。
- 血は肉は、うらみをのんで、空に散る。
- (生地獄だった砲台跡、いま熱帯樹林の中)
- 白日の夢、花をたむけて、ひとり佇む。
- 夕闇のかげりの中に、友の化をみる。

- 黄昏に、遠ざかりゆく、ボロを着て。
- (何か言いたそうな戦友の幻影は、私の横を通り過ぎていった。)
- 戦争とは人を多く殺せしものを、なぜか勇士とはいう。殺されたものは英霊という。
- 弾丸もなく飢餓の迫り来て玉碎の日。
- (基地に貼りつけられたまま死んでいった友)
- ボルネオのダイヤック族の墓の飾りは、ガルーダー(不死鳥)
- 山に散った戦友、ガルーダーに乗り、飛んで来よフジの山頂に。
- 水漬く屍、海に沈んだ友よ、椰子の実にすがりつき、波に幾年、辿りつけ目の本の岸に。

誰がために南溟に死せりしや。
 思ひは一つ、世界に日本が生きのびるため、
 そしてわが妻、わが子よ安泰にと。
 故郷はみな、御霊の帰りを待つ。
 戦争に負けて、生き残ったもの四十年の成果、
 経済戦に勝った日本を、一目でもよい、
 見てもらいたい。

合 掌



目次

巻頭	「発刊の辞」	大室 政右
巻頭	「タラカン スカラン」 (タラカンはいま)	秦泉寺 正一
	現地写真取材	
【本文】		
	戦時下の南ボルネオ縦走記	小松 東三郎……………1
	小松知事と陸軍部隊	元タラカン州知事
	タラカンからサマリタへ	元陸軍守備部隊
	今だから言えること	元財務科長
	反乱プト族へ潜入北ボルネオへ	元財務科
	追憶	元財務科
	わが愛刀を偲ぶ	元農林水産科
	わが第二の故郷	元ブラウ県
	回想	元ブラウ県 監理官事務所
	希元素鯨探査行	元土木科
	ボルネオならではのこと	元財務科
	タラカン生き残りの記	元農林水産科
	思い出の地ボルネオ	元フロンガン県 監理官事務所
	手紙に代えて	元商工科
		高 鍋 三千雄……………151
		藤 井 虎 視……………147
		加 藤 良 一……………141
		杉 田 三 郎……………135
		岡 田 敏……………129
		清 水 光 雄……………125
		加 藤 隆 一……………115
		松 田 徳 治……………107
		高 松 一……………101
		秦泉寺 正 一……………81
		大 室 政 右……………63
		井 土 武 久……………57
		宮 地 番……………51

	南ボルネオの秘境	元ボルネオ 民政部付	佐 治 光 男……………155.5
	イバン族踏査記	元フロンガン県 監理官事務所	賀 久 亥 一……………167
	御冥福を祈る。	元土木通信科	村 本 脩 三……………171
	東カリマンタン慰霊の旅		(村本記)
	妹尾兼生君の場合	元総務科	緒 方 番……………182
	「感謝」(手紙)	元土木通信科	森 川 栄……………182
	「近況」(手紙)	元マリナウ県監理 官副近榮長女	松 原 達 子……………183
	父の思い出	元ブラウ県 監理官事務所	飯 野 清 夫 人……………186
	「追憶」		(村本記)
	編 集 後 記		……………190
	昭和二十年四月タラカン州知事序在籍者名簿		……………192
	(当時の組織順による。)		